

嬉泉の新聞

- ・嬉泉の新聞／第46号／2001年（平成13年）6月発行（年3回発行）
・発行所＝社会福祉法人嬉泉
東京都世田谷区船橋1-30-9（〒156-0055） TEL 03-3426-2323
ホームページアドレス <http://www2s.biglobe.ne.jp/~kisen/>
メールアドレス kisen@mxg.mesh.ne.jp
・発行人＝石井哲夫 ・編集人＝小山裕子

高機能自閉症者等への処遇が今後の福祉援助の在り方を問いかける

白梅学園短期大学客員教授 村田 保太郎

私にはこれまでに、相談または教育・療育で関わりをもった自閉症児は大変多く、その中で現在三十歳から四十歳になっても何らかのつながりが続いている方が何人もいる。その中から、二人の現在の状態を通して福祉援助の在り方について考えてみたい。

アスペルガー症候群と思われるA君も、高機能自閉症と思われるB君も共に三十歳をいくつか過ぎた成人である。両者ともかなり深い関わりを持ち続けて現在に至っている。

A君からは時おり長文の手紙をいただく（字数の関係で紹介できず残念）。現在は母親がクッキーとケーキの工房を作り、彼のペースでほとんど一人で製品を完成させ注文に応じ評判が良い。一方NHKのテレビ講座で、中国語・韓国語（ともに知人の中国人・韓国人と会話ができ、発音もほめられる）そしてドイツ語まで挑戦している。市の第九合唱団メンバーとして今年は十九回目の出演となり、シューマンの歌曲集でリサイタルを開催したり、油絵の個展も開く。

A君は、小学校四年生くらいまで、特に幼児期は自閉性行動が激しく家庭・学校、周囲を混乱させていた。現在は在宅で週一回デイサービスを受けているが、時おりパニックになったり、うつ状態になり社会人としての生活を普通に行ったり、自立して生活することは困難であり、親の加齢と共にA君の今後をどうしたらよいか深い悩みを持っている。

B君の愛読書は、鉄道ジャーナル、鉄道ファン、鉄道ビクトリアルであり、読めない字は聞きにくるが、かなり難しい文章を読み車輛

の形式、性能、特徴などをすべて暗記し、全国のJR各線と駅名に詳しく、九州や北海道の平原を通るレールを自動車で通過する時には確実に線路名をいう。幼・小児期は自閉性行動が強く救急車を呼ぶこともあった。簡単な会話は十八歳頃から出はじめたが、“考え”や長い会話を続けることはできない。

数年前から施設に入ったが、比較的平穩に生活し、指示に従った仕事をしているが会話交流は殆どない。しかし、長期帰宅の時にはクラシック音楽を聴きながらテレビに出てくる舞台装置をボール紙で綿密に完成させることに没頭している。しかし、生涯にわたって自立した生活を送ることは殆ど困難である。

まず、AもBも誰かの、何らかの介助や援助がなければ今後の生活は保障されない。施設に入所したとしても、二人の自己実現欲求に十分に対応できる施設職員の数はなく、そうした生活空間を確保することは現状では困難である。施設ではBのような状態で生活することになる。また、施設職員の理念として“何らかの生産的活動を通して生きる喜びを持たせる”ということになればAもBも自己の存在感を喪失させてしまう。利用者の能力や欲求を実現させ“生きている実感”を共有できる環境を持つ施設は現在きわめてまれな状況である。福祉援助が個の存在を大事にすることであるとすれば、少なくともAとBが、安定した生活感情の中で自己実現できることを保障することであり、それを実現させることが福祉援助の原点だと考える。二人の存在は、その点を厳しく問いかけている。

利用者中心の援助論の展開が、すぐに政策論と結びついていくのとき錯覚を起こされているのが昨今の社会福祉界である。若者がどこで仕入れてきたか不明であるが、自信たっぷりシステム論を展開していることに接すると、一見「その通りだと折伏される」が、落ち着いて考えてみると誰も実行した経験を持たないことであることに気づく。TEACCHにしても、宣教師風に紹介してくれる人は多いが、それも高々一年程度の現地経験に過ぎない。ノースカロライナ州に多くの自閉症のいる家族が移住してきて、自閉症の住み良い地域にしてしまったことは、驚異的であるし、現代文明の壮挙ともいべきことであろう。

だが、それが世界の至る所に出来ていくことは幻想にすぎない。また、作るべく努力していこうという呼びかけも注意してみなければならぬと思っている。

TEACCHが、ショブラー教授から発して、どのように一大援助者群を形成するに至ったか、この文化を一つのモデルとして研究するに値することは言うまでもない。

い。我国ではどこにどのような真似られるかを冷静に検討してみなければならぬ。ただ、部分的にも取り入れていくことは十分出来ることであるが、その場合には、基本的にその仕事に関わる姿勢が出来ていなければならないと思っている。社会福祉現場に於いて、このTEACCHを取り入れて良い仕事をしている我々の親しくし

いる。わかりやすいように「受容的交流」という「交流」をつけた呼び方を工夫してみても相変わらず何もしないで眺めている受容がいる。「受容学派」の実践家の中には、理論家が少なからしい。

自閉症の援助者には受容という形よりも心を学んで貰いたい。三木先生という袖ヶ浦のびろ学園の訪問学級の先生が、「ガラス細工

社会福祉援助論

(その九) 石井哲夫

ている人もいるが、この場合でもこの仕事に長く関わり一言を有している人である。これを真似て部分的に器用に理論化している人もいるが、このような場合実践の評価が悪ければ信頼を失うであろう。

同様に我が「受容的交流理論」に於いても、いい加減な「受容」の実践がはびこっていて迷惑して

の職人のように利用者にとつと触るような関わり」と評価してくれた記事を見て、この先生は、受容的交流の本質に迫る観察眼を持っていると感じた。つまり、相手を大事に思う気持ちと何かを目指して関わるという受容的交流の本質を袖ヶ浦のびろ学園の職員の姿から感じ取ったといつてよいであろう。

援助者には、「受容的交流」に

基づく関わりのモデルは私自身の関わりの中から感じ取るように求めてきた。この私が際立って良いことをしておる訳ではない。ただガラス細工の職人修行のようなことを何十年かしてきて、この利用者たちの不自由さを感じ、さらに自分の気持ちを効果的に人に向けて訴えられないということを不憫に感じているに過ぎないのである。

私自身の経験でも、刺激の統制や視覚的な合図や現物での理解を深める援助技術はショブラー以前に開発してきている。しかし、それだけではなく援助の心とは、具体的にはロールプレイによって、受容的交流の実をあげることである。目標として考えていることは、基本的には、人間としての意志や意欲や自尊心という自我の動きに関する心(スピリチュアルな条件)を働かせる機会を多く求めることであって、これを技術としてきちんと心を働かせることが出来ないことでは療育ではないと思っている。従って、このことをあえて問題にしないし、心を大事にすることは当然のことという考えには同意できない。

私たちの

レポート

須藤福祉センター各事業所からの報告

社会との接点を求めて

『開発作業』

袖ヶ浦ひかりの学園

竹田 富義

『開発作業』は今年度で五年目を迎える。ひかりの学園の若い職員のリーダー達が変化を求めて動き出した時期に呼応して、『開発作業』の役割も変化してきた。

当初は利用者の牧場作業の仕事を確認しつつ、学園で採れる自然の恵みを有効利用する道を探り、農場を管理することが主な役割であった。それが、「社会参加を意識した援助」という変化の流れに後押しされて、受注の作業を担当することになった。

平成十一年度に、職業的社会参加をめざした施設内作業所として開設させた「ピカデリー」では、職場の新規開拓を図った。翌年、

利用者三名に、会社で仕事ができるような状況を設定できたことで、ピカデリーの当初の目標が達成され閉所となった。

『学園と会社との潤滑油として』

学園には独自の生活スタイルがあり時間の流れがある。しかし、会社からは経済活動としての要望がある。そのため、受注作業や会社での仕事を導入するには、会社の要望にどこまで応えられるかが課題となる。この不況の中、仕事を確保するためには「会社から当てにされ、信頼される仕事をする」ことが求められる。正確丁寧な仕事、期日や時間の遵守、一定の仕

事量をこなす事が大切な条件となるのである。さらに、会社の忙しいときや利用者の作業がないときの仕事の遂行などにも気配りが必要になり、時には、作業時間内では終わらない仕事を時間外に行うことも多くなってくる。

このように『開発作業』は、受注作業の仕入や納品、利用者の作業で消化しきれない仕事の遂行、会社で働く利用者のジョブコーチなど、会社と安定した関係を保つための潤滑油となり、学園と会社をつなぐ架け橋になっていると自負している。

『今年度の取り組み』

今年度は受注作業として部品の解体作業とジョーロの梱包作業を展開している。解体作業はノルマや納期がなく学園の状況に応じてできるとともに、利用者の能力に応じた仕事が行なわれることからこのびろ学園も含めて、多くの利用者が取り組んでいる。

ジョーロの梱包作業は、業務請負という形で受注していたのだが、利用者のI君が会社でその仕事ができるようになった。そのためI君が休んだ時やこなしきれない量の

仕事がある時は、それを学園に運んで来て、軽作業グループの仕事としている。これは定期的に今が一番忙しいときで、日々仕事に追われている。

今年の二月から指定ゴミ袋を作っている会社で二名の利用者がゴミ袋の梱包作業を行ってきた。この会社では、利用者が楽しそうに仕事をし、ある程度の仕事量をこなせるようになったが、不況で仕事量が少なくなり、五月で引き上げることになった。今後は、再度学園内の作業の充実を図り次の働く場を考えていきたい。

『今後の開発作業』

現在は、学園と会社との関係を良好に保つことだけに、開発作業の職員三人は振り回されている。農場の仕事の遅れや雑草に目をつぶり、現状をもう一年維持して会社との関係を強固にしていきたい。その後は、行動障害の強い利用者や軽作業や牧場で働いている利用者にも、新たに働く場を開拓できればと思っている。

これが達成できれば、その後は、利用者と共に管理できる農場作業のあり方を探って行きたい。

職員の思い

焼きそば

桜海老と鶏ガラの好い香り、ほのかに香るソースの香り、研修合宿での焼きそば研修で食べた、石井先生の焼きそばは、私に懐かしい過去を思い起こさせた。

約十年前、私は高校の部活動で、毎日毎日ラグビーをしていた。少し年をとった監督はものすごく怖く、部員達からはジイ様と呼ばれ、恐れられ、また、親しまれていた。ジイ様は、試合に勝っても激しく怒り、試合に負けても褒めてくれるような人で、試合結果よりもその試合で何を学んだかを重視し、ラグビーを通して、自分の中の怠惰な部分に勝つことが出来たのかという事を三年間言い続けた。その後には必ず「お前も社会に出たら辛いぞ、怠けなくなる自分というものが必ず出てくる、その時はこの三年間を思い出せ。きっと怠惰な自分に勝てるはずだ。」と付け加えた。

そんなジイ様が、試合の後に決まって部室で作ってくれたのが、

石井先生の焼きそばとほぼ同じ味の昔ながらの焼きそばだった。

ジイ様が亡くなって、その六年後に、私はジイ様の焼きそばに久しぶりに出会った気がした。

石井先生とは、なかなかゆっくりと話をすることは出来ないが、これからたくさんチャンスはあると思う、そのチャンスを逃さないように、機会があったら積極的に話をして、そこから何かを学び取っていききたい。そしてこの先、私の中で石井先生が、私にとってジイ様のような存在に、なっていたらいいなと感じる。

これから先、様々な事が待っているであろう。嫌な事や、もちろん感動したり、楽しい事もあるだろう。その中で出てくる、甘いん坊で怠惰な自分に勝ち続け、ジイ様の言葉と高校の三年間を思い出しながら、日々目標を持って仕事をしていきたい。

そして、毎年の研修合宿には焼きそば研修があると聞いたので、毎年毎年、石井先生の焼きそばを食べて、ジイ様のことを思い出し、そのつど今の初心の気持ちを胸に刻みなおしていきたいと思う。

(おおらか学園 稲垣 修)

嬉泉との出会い

かれこれ十数年前、初めて法人の施設を訪れたのは、石井ゼミの学習の一環として「袖ヶ浦のびろ学園」の現場を見学したときでした。そして、その一年後、今度は実習生として子どもの生活研究所のめばえ学園でお世話になりました。その当時は、自閉症の子ども達とかかわる仕事をしたくて、石井先生のゼミで勉強を始めた頃でした。今から思うと、大変生意気な（わかりもしないのに本で読んだばかりの知識をひけらかし、そのわりに何もできない）学生だったのではないかと思います、今の法人の一員として席を置く身になり、その当時ご指導いただいた先生方と顔を合わせるたび、顔から火が出るほど恥ずかしい思いをしております。同時に、縁あって社会福祉法人嬉泉の一員として働くことになり、十数年前お世話になった先生方と再びお会いすることができ大変うれしく思っております。

私が自閉症児者への療育を職業にしようと考えたのは、幼児期と小学校時代の統合教育での「自閉

症児」との出会いでした。小学校のときに、出会った自閉症のH君は自閉症の方たちの持つ独自の世界に目を向けるきっかけを作ってくれました。テレビ番組の出演者を毎朝確認したり、テレビのCMのフレーズを一緒に歌ったり、時には何故こんなことでイライラするんだろうかと思うことでパニックに陥ったり、カレンダー記憶の正確さに驚いたり、と様々な姿を垣間見、自閉症の方たちの持つ世界の不思議さと魅力に魅せられていったのでした。そのときは、自閉症とは何かなど考えず、目の前にいるこのクラスメートの不思議さや興味の視点の面白さに「おもしろい」「すごい」と心惹かれただけでした。

この体験を具体的な職業という形で目の前に提示し、そのかわり方の方の道を示してくれたのが、石井先生との出会いと子どもの生活研究所での実習でした。再び私の出発点である嬉泉に帰り、少しでも教えていただいたことをよい形で、社会福祉実践の場に還元できればと考えています。

(赤塚福祉園 竹之内章代)

すのこで石井賞

私が袖ヶ浦のびろ学園の環境整備係を担当して3年目になりました。この度は、業務上、有益な工夫をした人に与えられる「石井賞」をいただきました。

のびろ学園中庭のすのこに対し、数年前より「音がうるさい」「釘がういていて利用者が怪我をする」「老朽化がますます進み壊れやすい」ということや「壊れているので修理依頼を出します」等々、数多くの苦情が出されていきました。そこで、すのこの裏に消音の為のゴムシートを打ちつけたり、浮き上がった釘を金槌で打ちつけたりと補修はしておりましたが、とても追いつきません。そこで中庭のすのこを何とか抜本的に改善することになりました。

のびろ学園整理室の職員に相談に行き、「あ〜でもない、こ〜でもない」と話し合いを持つこと数回、とりあえず業者から数冊のカタログを取り寄せ多種のすのこを見比べることにしました。体重の重い利用者が何度も飛び跳ねても壊れない耐久性、のびろ学園中庭の景観に合う色や形、決められた

予算もあるので経済性も含め、多岐にわたる検討をしました。その中でも何よりも大切なことは利用者の安全な生活であると考え、試行錯誤の結果、あるユニットスノコを選択したのです。

上司にすのこのカタログと実物大の見本を見せ購入の了解を得て、業者によるスノコの設置箇所の測量、見積書の取り寄せ、などのいくつもの事務手続きを経て、長き年月にわたり悩みの種であった「すのこ問題」が終結しました。そして私が第一回目の「石井賞」を頂くことになり大変うれしく思っております。しかし、この賞は私一人でいただけただけではなく、厳しいながらも、その都度に適切な指示をしてくれた職員や一つでも笑顔で相談に乗ってくれた職員、環境整備係の同僚達がいたからだと思います。

袖ヶ浦へいらした時に、足元の緑のすのこにまつわる職員達や、これを評価してくれた「石井賞」のことも思い出してください。（袖ヶ浦のびろ学園 鳥海正幸）

手作りの物を

先日、こぐま学園のケースで餃子を作った方がいたので、試食をさせていただきました。餃子の皮はほのかに甘く香ばしく、素朴な味がしました。

手作りの餃子という私には、忘れられない出来事があります。

学生の頃、毎年夏になると、岩手県の重茂半島という所で食生活の実態調査をする為、研究室の仲間と村の小中学校にシユラフと調理用具と食糧を持ち込み、自炊しながら教室に寝泊りし、調査の傍ら村の子ども達と遊んだり、料理講習会を開いたりしていました。その料理講習会で餃子を作ることになり、粉をこね、麺棒で丸くのばし、皮作りに悪戦苦闘し、村の人達の前でドキドキしながら披露したのです。勿論、何度も練習を重ねて本番に挑んだのですが、手が震えていたことは言うまでもありません。

今日では、手作りするより買ってきたほうがおいしい物はたくさんあるでしょう。でも手作りの良

さは、たとえどんな出来であって特別なものに思えるのです。

今、すこやか園には、生後3ヶ月から6歳の子どもまで36名が、保育園で一日の大半を過ごしています。朝の忙しさの中で朝食を摂らずに来る子ども、生活のリズムが夜型になっている子ども、いろいろな環境の子ども達がおり、保育園で摂る食事やおやつは大切な役割を担っています。それゆえ、子ども達の健康を考えると、加工食品は極力避けておやつも手作りを心がけています。手作りの良さを解ってもらいたいのと、少しでもすこやか園の子ども達が丈夫に育ってくれるよう、お手伝いできればと思っています。

「おいしかったよ」「またつくって！」と言ってくれる子ども達の期待を裏切らないよう、また保護者の方にも安心していただけるよう、これからも手間隙かけた食事作りをしていきたいと思っています。子ども達の元気な笑顔を励みとして。

（子どもの生活研究所

栄養士 石井裕実子）

平成12年度 総括貸借対照表

平成13年3月31日現在

資産の部													(単位 円)
科目	会計区分	本部	めばえ学園	のびろ学園	ひかりの学園	赤塚福祉社 (校産)	赤塚福祉社 (更生)	おおらか学園	すこやか園	子どもの生活 研究所	春のひかり	赤塚ホーム	合 計
流動資産		118,559,777	12,287,330	36,018,392	45,841,263	12,347,963	37,002,868	5,900,252	13,458,676	7,448,027	4,394,231	8,562,093	301,820,872
現金		16,712	76,911	49,890	45,212	49,695	40,255	1,432	60,190	44,085	0	33,740	418,122
預金		105,160,302	12,025,514	32,991,281	41,343,001	11,617,844	36,711,190	5,898,820	13,294,941	7,103,142	3,794,091	8,492,253	278,432,379
未収金		6,000,000	184,905	2,977,221	4,289,050	680,424	251,423	0	103,545	300,800	492,140	36,100	15,315,608
前払費用		4,237,793	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,237,793
本部会計貸付金		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
施設会計貸付金		2,962,970	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,962,970
その他の流動資産		182,000	0	0	164,000	0	0	0	0	0	108,000	0	454,000
固定資産		2,983,332,190	3,834,385	37,189,352	40,630,688	11,800,000	24,700,000	4,977,344	630,000	4,925,745	2,422,312	12,000,000	3,126,442,016
建物		2,029,373,562	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,029,373,562
固定資産物品		119,382,045	3,834,385	37,189,352	35,630,688	0	0	4,977,344	630,000	4,925,745	2,422,312	0	208,991,871
土地		752,341,375	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	752,341,375
投資有価証券		6,398,962	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6,398,962
その他の固定資産		75,836,246	0	0	5,000,000	11,800,000	24,700,000	0	0	0	0	12,000,000	129,336,246
合 計		3,101,891,967	16,121,715	73,207,744	86,471,951	24,147,963	61,702,868	10,877,596	14,088,676	12,373,772	6,816,543	20,562,093	3,428,262,888

負債・純財産の部											(単位 円)		
科目	会計区分	本部	めばえ学園	のびろ学園	ひかりの学園	赤塚福祉社 (校産)	赤塚福祉社 (更生)	おおらか学園	すこやか園	子どもの生活 研究所	春のひかり	赤塚ホーム	合 計
流動負債		23,936,542	3,522,600	17,099,143	18,335,898	3,834,338	12,502,349	5,600,783	6,547,836	3,415,902	687,600	2,990,909	98,473,900
未払金		22,626,027	2,723,525	12,212,704	14,574,851	3,031,851	10,646,302	2,781,505	5,136,692	3,010,731	687,600	2,335,544	79,767,332
預り金		1,310,515	799,075	4,886,439	3,761,047	802,487	1,856,047	825,278	642,174	405,171	0	655,365	15,743,598
本部会計借入金		0	0	0	0	0	0	2,194,000	768,970	0	0	0	2,962,970
特別会計借入金		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
固定負債		345,152,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	345,152,000
設備資金借入金		345,152,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	345,152,000
引当金		59,139,552	0	0	5,000,000	11,800,000	24,700,000	0	0	0	0	12,000,000	112,639,552
人件費引当金		0	0	0	0	2,800,000	18,000,000	0	0	0	0	9,000,000	29,800,000
修繕引当金		0	0	0	2,500,000	5,000,000	3,700,000	0	0	0	0	2,000,000	13,200,000
備品購入等引当金		0	0	0	2,500,000	4,000,000	3,000,000	0	0	0	0	1,000,000	10,500,000
退職給与引当金		59,139,552	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	59,139,552
基金		2,941,623,263	3,834,385	37,189,352	35,630,688	0	0	4,977,344	630,000	4,925,745	2,422,312	0	3,031,233,089
基本財産基金		2,502,506,062	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,502,506,062
運用財産基金		439,117,201	3,834,385	37,189,352	35,630,688	0	0	4,977,344	630,000	4,925,745	2,422,312	0	528,727,027
積立金		△ 345,152,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	△ 345,152,000
固定負債積立金		△ 345,152,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	△ 345,152,000
繰越金		77,192,610	8,764,730	18,919,249	27,505,365	8,513,625	24,500,519	299,469	6,910,840	4,032,125	3,706,631	5,571,184	185,916,347
前期繰越金		46,609,163	4,979,220	19,125,499	26,284,557	4,048,508	7,105,457	0	4,225,526	3,151,738	2,991,783	5,494,665	124,016,116
当期繰越金		30,583,447	3,785,510	△ 206,250	1,220,808	4,465,117	17,395,062	299,469	2,685,314	880,387	714,848	76,519	61,900,231
合 計		3,101,891,967	16,121,715	73,207,744	86,471,951	24,147,963	61,702,868	10,877,596	14,088,676	12,373,772	6,816,543	20,562,093	3,428,262,888

平成12年度 総括収支計算書

自 平成12年4月1日
至 平成13年3月31日

収入の部														(単位 円)
科目	会計区分	本部	社会化基金	めばえ学園	のびろ学園	ひかりの学園	赤塚福祉園 (授産)	赤塚福祉園 (更生)	おおらか学園	すこやか園	子どもの生活 研究所	春のひかり	赤塚ホーム	合 計
1. 措置費収入		0	0	61,764,264	215,736,980	170,750,396	0	0	33,770,856	0	0	0	0	482,022,496
(1) 事務費収入		0	0	58,896,584	181,579,800	142,390,196	0	0	30,848,496	0	0	0	0	413,715,076
(2) 事業費収入		0	0	2,867,680	34,157,180	28,360,200	0	0	2,922,360	0	0	0	0	68,307,420
2. 運営費収入		0	0	0	0	0	0	0	0	45,537,840	0	0	0	45,537,840
3. 補助金収入		17,921,280	0	18,162,106	130,556,245	124,988,505	99,443,000	273,863,000	37,165,836	37,007,720	4,266,275	3,777,140	63,684,000	810,841,107
(1) 都道府県補助金		5,026,280	0	18,162,106	130,556,245	124,988,505	0	0	8,028,800	0	0	0	0	286,761,936
(2) 市区町村補助金		8,495,000	0	0	0	0	99,449,000	273,863,000	29,137,036	37,007,720	4,266,275	3,777,140	63,684,000	519,679,171
(3) 公益事業補助金		4,400,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,400,000
4. 事業収入		0	0	0	0	0	0	0	0	0	24,299,050	0	0	24,299,050
5. 寄付金収入		49,232,074	0	200,000	313,300	371,000	0	91,000	1,045,000	100,000	1,983,355	0	0	53,335,729
6. 利用者負担金収入		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,492,403	0	1,492,403
7. 雑収入		21,070,630	224,327	349,816	3,918,863	8,178,878	347,211	1,461,658	26,742	44,484	538,204	27,392	1,061,560	37,249,765
8. 授産収入		0	0	0	0	0	2,604,446	0	0	0	0	0	0	2,604,446
9. 繰入金収入		19,469,090	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19,469,090
10. 引当金戻入		4,990,560	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,990,560
11. 積立金戻入		7,689,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7,689,000
12. 前期繰越金		0	0	0	0	206,250	0	0	0	0	0	0	0	206,250
合 計		120,372,634	224,327	80,476,186	350,731,638	304,288,779	102,400,657	275,415,658	72,008,434	82,690,044	31,086,884	5,296,935	64,745,560	1,489,737,736
現予算額		122,940,000	225,000	80,510,000	360,375,000	309,881,000	104,319,000	275,437,000	74,154,000	83,033,000	31,462,000	5,297,000	69,894,000	1,517,527,000
比較増△減額		△ 2,567,366	△ 673	△ 33,814	△ 9,643,362	△ 5,592,221	△ 1,918,343	△ 21,342	△ 2,145,566	△ 342,956	△ 375,116	△ 65	△ 5,148,440	△ 27,789,264

支出の部														(単位 円)	
科目	会計区分 本部			社会化基金	めばえ学園	のびろ学園	ひかりの学園	赤塚福祉園 (授産)	赤塚福祉園 (更生)	おおらか学園	すこやか園	子どもの生活 研究所	春のひかり	赤塚ホーム	合 計 (収入支出総合計表)
1.事務費支出	30,129,830		100,762	71,092,199	290,643,157	249,847,195	81,219,797	189,486,631	66,194,355	71,662,850	21,955,347	3,176,637	63,521,581	1,139,030,341	
2.事業費支出			0	4,531,857	56,088,481	49,420,776	13,007,867	67,432,165	5,514,610	6,590,470	2,751,150	1,405,450	0	206,742,826	
3.雑支出	7,968,162		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7,968,162	
4.元利償還金	41,758,195		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	41,758,195	
5.繰入金支出	0		0	1,066,620	4,000,000	3,800,000	1,101,800	1,101,800	0	1,751,410	5,500,000	0	1,147,460	19,469,090	
6.授産支出	0		0	0	0	0	2,606,076	0	0	0	0	0	0	2,606,076	
7.固定資産取得費	9,933,000		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9,933,000	
8.小計	89,789,187		100,762	76,690,676	350,731,638	303,067,971	97,935,540	256,020,596	71,708,965	80,004,730	30,206,497	4,582,087	64,669,041	1,427,507,690	
9.当期繰越金	30,583,447		123,565	3,785,510	0	1,220,808	4,465,117	17,395,062	299,469	2,685,314	880,387	714,848	76,519	62,230,046	
合 計	120,372,634		224,327	80,476,186	350,731,638	304,288,779	102,400,657	275,415,658	72,008,434	82,690,044	31,086,884	5,296,935	64,745,560	1,489,737,736	
現予算額	122,940,000		225,000	80,510,000	360,375,000	309,881,000	104,319,000	275,437,000	74,154,000	83,033,000	31,462,000	5,297,000	69,894,000	1,517,527,000	
比較増△減額	△ 2,567,366		△ 673	△ 33,814	△ 9,643,362	△ 5,592,221	△ 1,918,343	△ 21,342	△ 2,145,566	△ 342,956	△ 375,116	△ 65	△ 5,148,440	△ 27,789,264	

平成 1 2 年度 事業報告

1) 理事会並びに評議員会の開催状況

回数	開催日	議 事 内 容
1	12.5.26	・ 11 年度事業報告 ・ 11 年度決算 ・ 子育て支援棟整備工事指名業者選定
2	12.10.21	・ 子育て支援棟整備工事請負契約の締結 ・ 東京都指導検査指摘事項の改善報告 ・ 諸規程改正 ・ 新会計基準への移行 ・ 施設オンブズマン規程の設置 ・ 袖ヶ浦の苦情解決体制の整備
3	12.12.19	・ 補正予算 ・ 定款変更 ・ 基本財産の担保提供 ・ 苦情解決体制要綱の制定
4	13.3.27	補正予算 ・ 13 年度事業計画 ・ 13 年度当初予算 ・ 定款変更 ・ 運用財産の無償使用承諾 ・ 諸規程改正 ・ 千葉県監査指摘事項の改報告 ・ 世田谷の苦情解決体制の整備 ・ 園長人事

2) 施設整備

「地域子育て支援棟」整備	9, 9 3 3 千円
(内訳) 世田谷区補助金	6, 0 0 0 千円
自己資金	3, 9 3 3 千円

3) 社会に向けた活動

①第 1 7 回自閉症実践療育セミナー（日本自閉症協会との共催）

テーマ『自閉症臨床～人間性重視の療育～』

平成 1 2 年 8 月 2 2 日～2 4 日 全社協灘尾ホール

②第 1 7 回自閉症治療教育実践講座（主催）

テーマ『自閉症児者へのケアプラン』

平成 1 3 年 2 月 9 日～1 0 日 須藤福祉センター袖ヶ浦ほか

③療育講座（主催）

テーマ『自閉症の心のケア』

平成 1 2 年 7 月 5 日 桜ヶ丘区民センター

④心の相談会（社会福祉・医療事業団助成事業）

平成 1 2 年 1 1 月 2 5 日 子どもの生活研究所

⑤「嬉泉の新聞」の発行

第 4 3 号（5 月発行）、第 4 4 号（1 0 月発行）、第 4 5 号（2 月発行）

⑥インターネット・ホームページの運営

<http://www2s.biglobe.ne.jp/~kisen/>

⑦第 3 6 回嬉泉バザー

平成 1 2 年 1 0 月 8 日 世田谷区役所中庭、ピロティ

⑧第 2 3 回嬉泉祭りバザー

平成 1 3 年 2 月 2 5 日 須藤福祉センター袖ヶ浦

⑨心の相談・心のケアマニュアル作成事業（社会福祉・医療事業団助成事業）

・ 「心の相談」事業の実施

・ 「嬉泉方式による『心のケアマニュアル』－行動障害編－」の作成

⑩心身障害者（児）入所施設サービス点検調整委員会運営事業

袖ヶ浦のびろ学園・袖ヶ浦ひかりの学園において、以下5名のオンブズマンを委嘱し、サービス評価と苦情受付を実施。

氏名	年齢	性別	推薦区分	職 業
村田保太郎	72歳	男	関係団体	白梅学園短期大学教授
山田美和子	64歳	女	関係団体	元全国社会福祉協議会職員
高原 武	56歳	男	関係機関	東京都立墨東養護学校校長
石原 敦夫	40歳	男	保護者会	伊藤忠商事社員
斎藤 博文	39歳	男	地域	袖ヶ浦市社会福祉協議会職員

⑪アトリエAUTOSの活動

・アトリエAUTOS作品展「SIX SENSES」

平成12年8月20日～9月10日 フミヤートギャラリー（広尾）

・アートフレンズ展

平成12年5月9日～14日 千葉市民ギャラリー

・ホットinふなばし芸術祭

平成12年2月6日～11日 船橋市民ギャラリー

⑫自閉症対応シッター養成事業の受託

ポピンズ・コーポレーションと提携し、自閉症対応シッターの養成事業として基礎講座と現場実習を行い、合格者に「自閉症対応シッター初級認定証」を発行。

4) 通常事業一覧

事業の種類	施設種別	名 称	施設長氏名	利用者定員	職員数
第一種 社会福祉事業	知的障害児通園施設	子どもの生活研究所 めばえ学園	川相智史	30(29)	15
	第二種自閉症児施設	袖ヶ浦のびろ学園	山根美江子	60	58
	知的障害者更生施設	袖ヶ浦ひかりの学園	奥村幸子	44	47
	知的障害者授産施設（通所）	東京都板橋区立 赤塚福祉園	友田篤	40	12
	知的障害者更生施設（通所）	東京都板橋区立 赤塚福祉園	友田篤	50	40
	知的障害者更生施設（通所）	おおらか学園	石橋悦子	20	13
第二種 社会福祉事業	家庭児童相談事業	子どもの生活研究所 こぐま学園	石井哲夫 小山裕子		6
	知的障害者 地域生活援助事業	グループホーム 春のひかり	石井哲夫	4	2
	保育所	すこやか園	島野雅子	36	19
公益事業	心身障害者 緊急保護事業	東京都板橋区立 赤塚ホーム	友田篤		15

嬉泉の出来事

学校大好き!!

入園前は登校拒否やパニックで両親を困惑させていた利用者達が、「学校へ行く」と毎朝楽しみにしている訪問学級とは、しいの木養護学校小中学部のことです。昭和59年より、袖ヶ浦のびろ学園内に教室を設置し、プールや体育館、サイクリングコース等、慣れ親しんだ環境の中で一日二時間の個別授業がうけられるようになりました。

当初は、教育と療育の視点がかみ合わず、授業に適應できない場合は「欠席」という対処をしていました。

その後、話し合いを重ね、現在は、新入園児が園の生活に慣れた頃に担任がのびろ学園のグループ活動に入り、馴染んできた様子を見ながら、少しずつ教室での授業に切り替え、そこで担任との信頼

関係を育み、安定したら小集団活動から本校スクーリングへとつなげられています。

その為に、毎週のケース会や月例連絡会など、個々の必要に応じた授業内容や対応について意見交換をして共通理解に努めています。

昭和62年には、高等部にも進学し、九時から三時まで、送迎バスにて登校し、本校生徒と教科学習や作業学習に取り組むようになり、体験の幅が広がりました。まだ検診や行事があると不安や期待で緊張し、動揺することもあります。

しかし、対応が難しい生徒には職員がついて短時間だけ授業に参加をさせたり、見かけの行動に惑わされずその生徒の本音をみつける関わりや、生徒の気持ちにより添い支える対策を練ったり、パニック時の対応、などを共有できるような連携態勢が育まれてきました。また、地域活動として近隣の教

育関係者対象の自閉症児研究会では、同じケースを教育と福祉の現場の視点から実践発表をしたり、嬉泉のセミナーや学園内の抱っこ法研修等で先生方と共に学べる機会をもっています。

一方、学校主催のしいの木カップ（スポーツ大会）では、千葉福祉ホームや、エルピザの里、アガベの里、そして嬉泉の各施設からも職員が集い交流の輪が広がり、教育と福祉の現場が垣根をこえて交わり始めていることを実感しています。

学校嫌いを克服できた利用者と共に感謝を込めて。

（袖ヶ浦のびろ学園 川相豊子）

平成12年度

社会福祉法人 嬉泉
寄付者名簿

（敬称略・順不同）

早瀬 敬・鈴木佳子・早瀬 進
大木光夫・奥田けい・松尾洋光
時永康男・湯浅 正・大山勝地
竹田 健・田邊和夫・相原和人
山口 深・浅木ヤス・村田 操
小林陽子・南村 昇・綱川省三
大村光宏・清水正弘・済田順子

秋山信靖・齋藤 穂・前川長慶

黒林美江・市川すみ・横地利博

持田才子・廣田博子・横溝四郎

木村元正・木村珠江・水口和恵

小山悦夫・福井 耀・賀戸文彦

工藤邦英・片桐一平・村田堅一

穂山隆男・池上嘉信・山中勝子

新妻主計・伊藤 温・小原ナツ子

工藤正路・三宅 正・相原美千代

田村聰達・山岸敏男・山田美和子

田村 匡・吉賀敏郎・浜ノ園利夫

野田康生・高田昇一・村田いずみ

吉原 貞・村岡精一・飯田真奈子

小林秀一・納土郁子・中村二三男

土谷 新・山本博明

日本自閉症協会出版部

医療法人社団嬉泉会

朝日管財株式会社

am pm千歳船橋店

千歳ヶ丘教会

東洋和英女学院大学宗教部

日本基督教団果嶋ときわ教会

瑞穂工業技術研究所

嬉泉後援会

株式会社世田谷サービス公社

北沢優申会

恵泉女学園中学校信和会

（平成12年4月から13年3月）

ご協力ありがとうございました。

施設オンブズマンてなあに？

Q 「オンブズマンってどういう意味？」

A 「語源はスウェーデン語の護民官という言葉で『施設・団体におかれ、サービス内容を点検し、利用者の人権を守る第三者機関』のことだよ」

Q 「嬉泉にもオンブズマンが居るの？」

A 「うん。平成十一年度から東京都の指導で設置したんだ。とりあえず入所施設のサービス内容を点検すること、袖ヶ浦の『のびろ学園』と『ひかりの学園』を対象にして五人の『オンブズマン』が活動している」

Q 「通所施設は対象になってないの？」

A 「そう。なぜかというね、やはり東京都のほうで『入所施設サービス評価基準』というのを作ったんだけど、これは施設が自己評価をすると同時に、第三者評価を取り入れるということが眼目で、そのための機関として各施設に補助金を付けて『オンブズマン』の設置を指導

したという経緯があるんだ」

Q 「ふーん。じゃあオンブズマンは東京都の人なの？」

A 「ううん、そうじゃなくて、あくまでも『オンブズマン』は嬉泉が『利用者の権利と利益の擁護を図り、利用者提供するサービスの質を確保するため』に主体的に設置したもので理事長の諮問機関として位置付けられているんだよ」

Q 「オンブズマンはどういう人？」

A 「事業報告に名簿が載っているから見てね」

Q 「どういう活動をしているの？」

A 「さっき触れた『施設サービス評価基準』に基づいた第三者としての評価と、もうひとつは施設利用者からの苦情解決というのがある」

Q 「でも苦情といったって、自閉症の方で自分の意思をあらわし

難いケースもあるけど…」

A 「うん、確かにそれがいちばん難しいところで…あ、紙数が尽きた。この続きは次回ということで…」

Q 「次回があるんですか？」

A 「ええと…」

(事務局長 石井 啓)

『朗読教室』と『ドライフラワーアレンジメント教室』

今年度、世田谷区の「障害者施設等における地域住民との交流事業」の委託を受け、子どもの生活研究所で、4月から、月2回の『朗読』と月1回の『ドライフラワーアレンジメント』の講習が始まりました。この講座を受講される方は、世田谷区の区報を見て応募された一般の方と、子どもの生活研究所の職員と利用者です。また、講師の方々は、何らかの形で、子どもの生活研究所とつながりがあり、私達の仕事を支援して下さるお気持ちで、この事業に携わってくださいました。

平日の午前中、という条件なので、参加される方は年配の方が多いいのですが、皆さんのパワーと一緒に参加している職員の方が圧倒されそうです。

『朗読教室』では、ラジオドラマの状況が何場面か作られるのですが、そこで求められる即興性や役になりきることなどが、この仕

事の土台になっているロールプレイにも似ていることや同じ花材を使って作ったリースに個性の違いがはっきり出ているなど、人とかかわるこの仕事と通じるものを感じます。

紙面の関係で詳しくご報告できないことが残念ですが、この事業を通して一般の方が私達の施設を身近に感じてくださり、この仕事に関心を寄せてくださる機会になることを願っています。

(福祉活動センター よろこび 小山裕子)



ドライフラワーアレンジメントの講習会

ひかりのタイムス

独立第40号

平成十三年三月二日〜七日、ひのき組の市川浩志さんが四度目の海外旅行を行いました。今回は台湾↓韓国↓九州という計画でした。台湾旅行の思い出

市川 浩志

学園を朝早く出て、羽田までは車で行って、中華航空で台北へ飛んで、その日は基隆へ行って回って見て、屋台でカキやきを食べて台北にもどった。

次の日は花蓮へ行った。列車で行って海岸公園港を回って台北へもどって、その日は休んで、次の日は台北から韓国へ飛んだ。ソウルに一泊して韓国焼肉を食べた。

その次の日は釜山へ行った。鉄道の終点、兵隊さんがいた。そこで少し見えてから今度はソウルへもどってから釜山に向かった。

列車で南下して釜山へ行って一泊して次の日釜山の市場と港を見た。そのあとは釜山から博多へ船

でわたった。海をわたった。

そのあとは博多で見学、西鉄の駅へ行った。

次の日は博多から新幹線で小田急へ行って、小田急で狛江へ行き、家に帰った。

台湾は、あったかかったが、韓国は寒かった事もあった。

台湾から韓国へ行き、韓国から列車と船と新幹線とのりついた。

日本から台湾にとんだ。台湾から韓国へとんで、韓国から日本まで列車と船と新幹線のりついたと言ったことで、台湾はよかった。

韓国もどんなとこかわかった。釜山は田舎だった。けしきも田舎と山とかがあった。ソウルと言うところは、駅がたのしかった。ソウルから釜山は山もあった。けしきもあった。釜山は港だった。釜山の公園も行った。

西鉄の駅もついでに行った。台湾は、花連の海岸は、はじめに駅からタクシーで行った。ヤシ

の実をのんだ。

台北は地下のホームと外のホームとあったのがわかった。台北駅はよくわかった。

(袖ヶ浦ひかりの学園利用者)



ソウル→釜山行の列車の前で

台湾・韓国旅行に随行して

沼倉 実

市川さんの旅行の目的は、私は全く違ったものである。今回は市川さんの視点で旅行をして、市川さんの興味や楽しみに触れ、理解を深めてみようと思ひ、市川さんの立てた計画がうまく進むようにサポートしていった。

市川さんは、私が考えるような観光にはほとんど興味がない。街やハイテクな物にもあまり気持ちが向かない。列車、船、田舎、山、港など、時間がゆっくり流れている、もしくは止まっているような

ものに惹かれている。また、興味

を持つデザインは、人の原始的な感覚を呼び起こすようなもののよう

に感じられる。我々のように、

欲によって支配されている生活体

系の中では、プロセス抜きで

結果が独立したものとして飛び込

んでくる。魚を食べ海を思い浮か

べたり、米を食べ田んぼの風景が

浮かんだりしない。飛行機で移動

しているときに道や海が続いてい

て、そこにさまざまな人の営みが

あったり、それが少しずつ変化し

ていく連なりの中で、土地の色が

出来上がっているなんて思わない。

市川さんといういろいろなものを見

ながら話をしていくと、その発想

の自然に根ざした大きさに自分の

矮小さを感じさせられる。

市場魚を見る。私「美味しそう、

調理法は？」市川さん「どんな

海で泳いでいるのか？ その姿を

みてみたい。」……どちらが豊かな

のかは明白である。

最後になりましたが、台湾では

赤塚福祉園職員の大川さんのご令

嬢とご友人、韓国ではおおらか学

園職員の田辺さんのお姉さまご夫

婦に案内や説明をしていただき、

言葉のわからない土地での旅行を

無事行うことが出来ました。あり

がとうございました。